

塩壺温泉ホテル

Shiotsubo Onsen Hotel
(長野県軽井沢町)



本日は軽井沢スノーパークで来季スキー板の試乗会に参加し、散々ニューモデルを試した。おかげで程よい疲労がたまった状態で、塩壺温泉へやってきた。

塩壺の名の由来は、800年ほど前に源頼朝がこのあたりで狩猟をしていた際、鶴が傷を癒している温泉を発見した。その温泉はこのあたりで初めて発見された温泉であったため、初めての湯壺という意味で初壺(しょつぼ)と名付けられた。それがいつしかなまって塩壺になったという。従って塩とは何の関係もなく、湯が塩辛いとい

いうことはない。

塩壺温泉ホテルは古いホテルであるが、かなりの高級ホテルだ。高級であることは、ホテルの造りと従業員の応接態度を見ればすぐにわかる。我々のような貧乏人が泊まれるホテルではないが、温泉だけなら手軽に楽しめる。

フロントで入浴料を支払い、貴重品を預ける。脱衣室にはロッカーがないためだ。浴室はフロントより1層下がって地下1階にある。

脱衣室には洗面台4個、ドライヤー2個、ヘアリキッド、トニック、アフターシェーブローションなどのアメニティが完備。脱いだものは籠に入れる。籠は18個ある。

浴室はシンプルである。内湯に大風呂があり、屋外には露天風呂がある。サウナ、水風呂はない。内湯は定員15人ほどで湯温は適温。湯は無色透明である。露天風呂は2つあるのかと思いきや、1つは池である。間違っても入らないように注意しよう。露天風呂の定員は6~7人程度。湯温は適温だ。露天風呂といっても完全は露天ではなく、半露天である。

洗い場は7か所。シャンプーとボディーソープは完備している。

ちなみに塩壺温泉は、ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物温泉(低張性中性温泉)で、筋肉もしくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢神経障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、胃にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害、うつ状態など)、病後回復期、疲労回復、健康増進、きりきず、末梢循環障害、皮膚乾燥症、うつ状態に効くという。



実は、最近右足が痛い。スキーのやりすぎによる筋肉痛かと思っていたら、なんと椎間板ヘルニアだった。要するに筋肉の問題ではなく、神経の問題であったのだ。しかし、辛いスキー中はなぜか痛みをほとんど感じなかった。さらにラッキーなことに、塩壺温泉の効能には神経痛がある。というわけで、本日はろくに体を洗わずに、露天風呂で長時間粘った。のぼせてきても、足だけは湯船に浸けっぱなしにした。おかげで入浴後は足が軽くなったような気がした。

軽井沢には塩壺温泉以外にも、日帰り入浴が可能なホテルがいくつかある。いずれ紹介したい。

DATA

名称	塩壺温泉ホテル
所在地	長野県軽井沢町中軽井沢塩壺
電話	0267-45-5441
営業時間	要確認
定休日	無休
入浴料	大人（中学生以上）1,000円、子供（3歳以上、小学生以下）500円、
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2017年3月25日
取材	銭湯愛好会東京支部